

石合ゆうたを応援する会

ゆうゆう通信^{第3号}

討議資料

社会新報

発行日 2月10日

発行責任 六川甲子雄

住所 上田市住吉 2920

電話 75 0466

日頃よりのご支援に心より感謝を申し上げます。

競争から共生の社会へ



平成生まれ

お年寄りから子どもまで
誰もが住みたくある町

いまの私たちは大きな格差のある社会に暮らしています。

最近の株高で潤う人がいるかと思うと、一方では、給与が上がらず苦しんでいる人もいます。また、いつ雇い止めに会うか心配している人もたくさんいます。若者達は、将来の見通しが立たず結婚もできない状態です。また、子ども達はそういう大人の社会をみて将来に不安を感じ、入学試験などに勝つために勉強に追い立てられています。

こういう社会でいいのでしょうか。

私はそうは思いません。一人一人が安心して暮らせ、若者や子供が夢を持ち、お互いが助け合うような世の中にしたいと思っています。

上田市政を通じて世の中を変える決意をいたしました。

石合ゆうた

石合ゆうた

ゴミ処理施設（資源循環型施設）

ゴミ処理は上田市民みんなの問題ですが、処理施設の建設地は現在どこの自治会も受け入れていないのが現状です。

この問題は市民みんなで、抜本的な対策を立てることが必要です。そのためには、自分が出したゴミは自分で処理する（ゴミの地産地消）という考えのもとに、巨大な施設を一つ建設する代わりに、いくつかの地域に中規模の施設を分散して建設するという選択肢も考えられます。そのメリットは：

1. ゴミを自分の問題として意識することができる。
2. 巨大施設の建設を大きな企業1社に任せるのではなく、中規模の施設を地元の企業の協力によって作り、地元の仕事を増やし、雇用を作ることができるにあります。

市民、市議会、行政機関などが総力を挙げて対応する必要があります。



学校給食センター

学校給食センターの建設は、ある地域一箇所に大きな学校給食センターを作り、上田市のすべての学校に配送するという計画で、1万食もの給食を作ることになります。

【大きな給食センターの問題点】

1. 給食センターのある場所から遠い学校にはあたたかい食事が届けられないこと。
2. 給食センターで異物混入などが発生した場合、上田全体で施設の点検などで市内一斉に給食が停止してしまう可能性があること。
3. 地元の食材を十分に活用できないこと。

【代替案】

各学区程度の単位で中小規模の給食センターを複数作り、その地域で作った食材を使うという案です。この案では大きな給食センターで心配される問題は避けられます。予算の問題がありますが、次世代を担う子ども達に使うお金として、これを削ることは避けなければならないでしょう。



地域でいただくご意見・ご要望

＼地域課題／

遊休農地や耕作放棄地が目立ちます。後継者問題も含めてなんとかしないと！

＼解決に向け取り組みます／

上田地域の自立した経済圏を作るためにも、私たちの食生活の基本である「農業」について、生産者と消費者の参加する市民全体のプロジェクトチームを作り、みんなで検討していきたいです。

市民生活の基礎である製造業を盛んにし、結果として活気のある商業の街にしたいです。自然条件を利用した自然エネルギー関係の産業や新しい発想の新産業創設を上田から発信します。

最近、上田の街には元気がないように感じます。昔のような活気を取り戻したいものです。

学校の先生方がとても忙しくて、大変なように見えます。なんとかならないでしょうか。

国や県の問題とも絡んできませんが、残業の温床となっている不急な報告書や研修会などの削減を通して働きかけていきます。

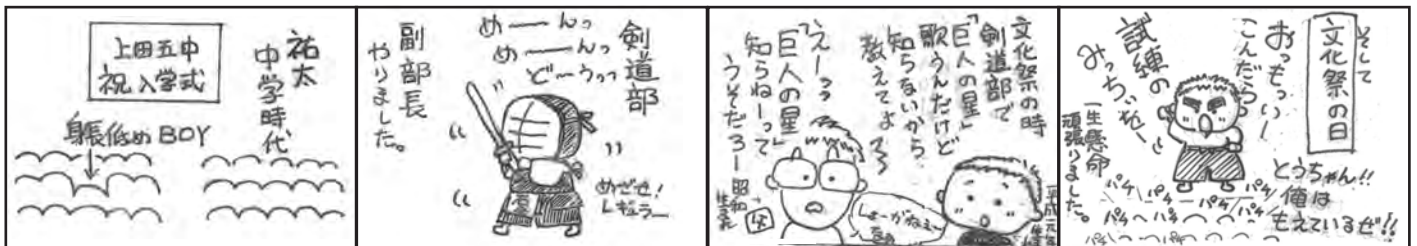
街角トーク

街角トークで定期的な政策報告・市民の皆さんのご意見をうかがい、政策に反映させる機会を大切にしています。マイク握っててもかまいません。何かあればお気軽にお声掛けください。

市民のみなさんとの意見交換からいただいたご意見、ご要望に対して「ゆうゆう通信」でも取り上げさせていただき、それを踏まえた政策案などご提案させていただいています。



ゆうゆうヒストリー



石合ゆうたを応援する会の
入会活動に引き続き、ご協力
お願いいたします。

共同代表 六川甲子雄
早川潤